

# 平成24年度学校腎臓病検診について

新潟市医師会学校腎臓病検診判定委員会 池 住 洋 平

新潟市医師会の会員の皆様ならびに学校腎臓病検診の関係の方々には毎年大変お世話になっております。

昭和48年（1973）に学校保健法施行規則の改正により尿検査が学校健康診断の必須項目となって以来、本年とうとう40年目を迎えました。一方、わが国の慢性透析患者は2011年には延304,592人に達し、前年度に比べて約6,000人の増加がみられています。ただし、2002年以降の増加は経年的に10,355人、8,172人、10,456人、9,599人、6,708人、10,769人、8,179人、7,240人、7,591人と推移しており、慢性透析患者数の増加は鈍ってきているようです。これは、学校検尿の普及による慢性糸球体腎炎を原疾患とする腎不全患者の減少と、生活習慣病対策が徐々に浸透したことによる糖尿病性腎症患者の増加傾向が鈍っていることによるものと考えられています。また、日本学校保健会が中心となって、昭和54年に初版が作成された「学校検尿のすべて」は、平成2、15年と改訂を重ね、平成23年度に新たな改訂が行われ昨年最新号が発刊されました。これまで40年間という長い歴史の中で蓄積された様々な臨床的な知見に基づき、管理基準の見直しが行われています。

新潟県はこのような歴史ある学校腎臓病検診を全国に先駆けて開始した地でもあり、このような背景のもと、新潟市におきましても学校腎臓病検診の精度の向上、およびより適切な診断・管理基準の確立を目指して少しずつですが改革を行って参りました。これらの結果を踏まえ、平成24年度の新潟市学校腎臓病検診の結果を報告させていただきます。対象は新潟市内の小学校から高等学校に通う6歳～18歳の児童・生徒です。

## 1. 1・2次検尿結果およびメジカルセンター実施1次精密検査結果（表1～3）

平成24年度の対象者は、小学生41,330名、中学生21,353名、高校生1,574名の計64,257名で、前年度の65,024名から767名減少しています。平成17年に新潟市が合併し、一時総人口は81万4千人に上りましたが、その後6～18歳の就学年齢の児童を含む人口は継続して減少しており、受検者数にも影響しているものと考えられます。1次検尿の受検率は99.4%ではほぼ例年通りの安定した受検率を保っています。

1次検尿、2次検尿の異常頻度はそれぞれ総受検者の3.0%（1,932名）、0.6%（370名）であり、前年の3.8%（2,469名）、0.9%（588名）よりかなり減少しています。また、小学生では1次検尿、2次検尿の異常頻度が2.2（平成23年：3.0）%、0.50（平成23年：0.78）%であるのに対し、中学生では4.5（平成23年：5.2）%、0.74（平成22年：1.15）%と小学生、中学生ともに減少していますが、中学生の方が異常の発見頻度が高いというこれまでと同様の傾向がみられています（表1）。

2次検尿で異常を指摘された370名のうち、1次精密検査にメジカルセンターを受診したのは270名（73.0%）で、そのうち異常ありと判定されたのは188名、総受検者の0.3%です（表1）。小学生は0.25%、中学生は0.39%と、ここでも中学生でより高頻度に異常を指摘されています。平成23年度には計308名（0.5%）と比較しますと随分と減少した印象があります。1次精査異常者188名のうち183名（97.3%）は特に生活制限を行わない管理区分E判定、残りの5名（2.7%）についても、軽度の運動制限を行うD判定でした（表1）。これらの管理指導区

分の内訳は例年通りの傾向にあります。

尿所見異常の内訳は、尿沈渣赤血球5-50個／視野の軽度血尿単独例(血尿群Ⅰ)が82名、51個以上／視野の高度血尿例(血尿群Ⅱ)であった2名と合わせ、血尿単独例が84名(44.9%)と最も多く、これまでと同様の傾向ですが、平成22年度の180名(61.9%)、平成23年度の164名(54.1%)と比較し徐々に減少傾向にあるようです(表2)。一方、蛋白尿単独例は86名(46.0%)と、平成22年度の73名(25.1%)、平成23年度の109名(36.0%)と相対的に蛋白尿単独例の占める割合が徐々に増加しております。最も腎炎の可能性が高い血尿・蛋白尿両者陽性例は15名(8.0%)で、昨年平成23年度24名(7.9%)と比べて検尿異常に占める割合は変わりませんが、実人数は減少しております(表2)。

血液検査では例年通りASO高値例が最も多く、35例(77.8%)でしたが急性糸球体腎炎の活動期にみられる補体値の異常(低下)が認められた例はありませんでした(表3)。また、平成24年度は腎機能障害の存在を示唆するクレアチニン値の上昇例が1例、ネフローゼ症候群の可能性を示唆する総蛋白減少例が3例みられました。一方、例年血液検査上の異常を示す例の中に、尿所見異常を全く認めない例も含まれており、平成25年度の検診では、このような例の取り扱いあるいは検査項目について見直しを行う予定であります。

表1にあります1次精査にまわった総数が188名であるのに対して、表2の検尿異常者が1名少ないのは、尿所見がなく血液検査のみで異常を指摘された例が1名含まれていることを示唆しています。

## 2. 医療機関実施の検診結果(表4、5)

2次検尿で異常を指摘された370名中、メジカルセンターを受診せず、他の医療機関で精密検査を受けた88名に、学校側精検希望者126名を加えた214名のうち、尿所見の異常がみられたのは189名(88.3%)で、多くは以前から医療機関で治療または経過観察を行われている例と考えられます。管理区分はメジカルセンター受検例と同様に183名(96.8%)がE判定と最

も多く、次いでD判定が3名(1.6%)、C判定が1名(0.5%)、また、運動が禁止されるB判定も2名(1.1%)みられました(表4)。

精査結果について、平成21年度から行っている診断病名の整理ですが、これまでみられた無症候性血尿と血尿群や蛋白尿と無症候性蛋白尿などの重複報告が無くなり、ようやく病名整理が定着したようです(表5)。要管理例189名のうち診断未確定の暫定診断例が123名(65.1%)みられ、血尿群1、2を合わせた血尿単独例が105名(85.4%)と大半を占めています。一方、平成24年度は無症候性蛋白尿例が14名(11.4%)と例年になく高頻度にみられました。また、確定診断名にはIgA腎症やネフローゼ症候群など、医療機関で管理されている例が多数含まれていると考えられます。

## 3. 2次精検受診者追跡調査結果(表6~9)

1次精密検査にて要2次精査となった188名のうち、医療機関を受診したのは177名(94.1%)であり、このうち62名(35.0%)が要管理となっております。これは平成23年度の134名(51.5%)と比較して大幅に減少しています。また、要管理例はいずれも管理指導区分はE判定の評価となっております(表6)。

「現況」をみますと、平成24年度は「来院しなくなった」例がなく、新潟市における要管理例は市内の医療機関でしっかりと管理されていると考えられます。「転医」については、転居などに伴う新潟市・県外への移動に伴うもの、またキャリアオーバー例なども含まれると考えられますが、詳細は明らかではありません(表7)。

メジカルセンター受診例177名の追跡調査結果を表8に示しました。管理不要例は115名、要管理例62名のうち診断未確定例(暫定診断例)が52例(83.9%)を占めており、その多くは血尿単独例となっております。生理的な蛋白尿である体位性蛋白尿は52名、全体の29.4%を占めておりますが、そのうち51名(98.1%)は管理不要となっております。要管理となった蛋白尿単独例と合わせた無症候性蛋白尿例58例のうち体位性蛋白尿の占める割合は89.7%となり、平成23年度の77.3%よりも明らかに増加しています。

このような結果はメジカルセンター受診例については、依然として検査前夜の排尿などの徹底が十分でないことを示唆する結果かもしれません。今後検討を要する課題と言えます。

#### 4. メジカルセンターおよび医療機関実施結果の合計および出生体重との関連（表9、10）

精密検査をメジカルセンター以外の医療機関で行った214名（表5）とメジカルセンターで要2次精密検査と判定され医療機関を受診した177名（表8）の計391名の集計結果を表9に示しました。診断未確定例（暫定診断例）が190名（48.6%）と半数を占めており、そのうち血尿単独群が82.3%を占めていました。この血尿単独群と確定診断名の家族性良性血尿を合わせた血尿単独例が計184名（全体の47.1%）を占めています。無症候性蛋白尿に体位性蛋白尿例を加えた蛋白尿単独例が77名（全体の19.7%）で、平成24年度の学校腎臓病検診で発見された蛋白尿単独例のうち体位性蛋白尿が占める割合は74.0%となり、メジカルセンター受診例のみの精査結果と異なり、全体としては「学校検尿で発見される蛋白尿単独例の7割は体位性蛋白尿である」という以前から報告されている頻度に一致します。しかし、先にも述べましたが、このことは過去40年間に行われてきた学校腎臓病検診において全く改善がみられていないことを示す点として、やはり今後検討を要する課題の一つと考えられます。

全体391名のうち251名（64.2%）が要管理と判定されておりますが、管理指導区分は245名（97.6%）がE判定で、3名がD判定、C判定が1名となっており、本年度は高度な運動制限が必要なB判定も2名みられました（表10）。

平成22年度から新規に設けた調査項目の出生体重・在胎期間ですが、調査票の回答率が徐々に上がっており、少しずつ正確な状況が把握できるようになって参りました。平成24年度の暫定診断190例中に占める異常例は11例（5.8%）で、あまり多くはないようですが、体位性蛋白尿の診断例57名中8名（14.0%）が低出生体重児という結果が得られ、平成23年度の12.5%、平成22年度の10.0%に引き続き高い数字が見られています。わが国の全出生数に占める低出生

体重児の割合が約9.5%であることを考えますとこの数字は明らかに高値であり、しかも増加傾向にあります。体位性蛋白尿は、本来なら生理的蛋白尿と考えられておりますが、潜在的な腎疾患が存在する可能性や、体位性蛋白尿の診断が適正に行われていない可能性など今後慎重に検討する必要があるかと思えます。

#### 5. 平成24年度の新規診断例（表11）

平成22年度から実施している、新規発症例（小学校1年以前に尿所見異常の既往がない例、または小学校2年以上で前年度までに尿所見異常を指摘され要管理となった既往がない例）の検討ですが、表10で平成24年度に要管理となった251名中58名（23.1%）がこの年に初めて尿所見異常を指摘されていることが分かりました。新潟市の検診対象64,257名に58名（0.09%）、すなわち6～18歳の児童1,000人に約1人の頻度となり、平成22年以降ほぼ同様の頻度で推移しております。

#### 6. 今後の展望

冒頭に記載させて頂きましたが、平成23年度に「学校検尿のすべて」が改訂されました。これまで40年間の学校腎臓病検診の歴史の間に蓄積されてきた多くの臨床データの解析から、診断や管理基準などが徐々に改正されております。以前の「学校検尿のすべて（平成15年度改訂版）」の管理区分の目安では、血尿単独例もC判定やD判定になる場合がありました。しかし、今回の改訂により、血尿単独例は血尿の程度に関わらず原則としてE判定となっております。これは、血尿単独例は、原疾患の如何に関わらず予後が良好であるというエビデンスに基づいています。このような変更や背景を受けて、すでに学校腎臓病検診システムにおける血尿単独例の診断基準や管理法の見直しを行っている地域も見られます。このような管理基準の改訂は、実は今回の改訂から初めて日本小児腎臓病学会が関与したという経緯があります。これまでの「学校検尿のすべて」は、学校側の特に養護教諭が中心に作成されておりました。そのため、管理基準もどちらかと言えば学校側が管理しやすい基準が設けられておりました。そのた

め、今回初めて小児腎臓病学会が関与して行われた改訂の内容には、学校側の容認が得られにくい部分もある可能性や、まだ学校側で改訂点が把握できていない可能性があります。新潟市では、尿所見異常を指摘された多くの児童が管理指導区分Eで管理されており、現在のところ、この新基準に準拠した管理指導が行われているように思われますが、今後しばらく学校側

の反応をみていく必要があるかと思われまます。また、今回の改訂を受けて検討しますと、まだまだ無用な検査や不要な管理を行っている可能性も十分考えられ、今後は常に新しい情報をもとに新潟市独自のシステムを確立、整備していく必要があるかと思ひます。皆様のご協力を御願ひすることも多いかと思ひますが、引き続き何卒宜しくお願ひ申し上げます。

## 平成24年度 学校腎臓病検診結果

○メジカルセンター実施（表1～3）

表1 受検数及び異常数

		1次検尿		2次検尿		1次精検受診数 (メジカルセンター)			1次精検結果								
		1検 対象数 (A)	受検数 (B)	異常数 (C)	受検数 (D)	異常数 (E)	2検 異常数 (F)	学校 希望数 (G)	計 (H)	異常あり						管理 不要 (K)	
										総数		管理指導区分					
										腎尿路疾患既往のある者 数(I)	(再掲)(J)	A	B	C	D		E
小学校	男	21,196	21,189	310	297	54	34		34	28	14				1	27	6
	女	20,134	20,102	602	578	154	108		108	76	28				2	74	32
	計	41,330	41,291	912	875	208	142		142	104	42				3	101	38
中学校	男	10,938	10,859	393	373	67	53		53	38	10				1	37	15
	女	10,415	10,356	569	546	91	72		72	44	19				1	43	28
	計	21,353	21,215	962	919	158	125		125	82	29				2	80	43
高校	男	703	586	21	19												
	女	871	759	37	35	4	3		3	2	2					2	1
	計	1,574	1,345	58	54	4	3		3	2	2					2	1
合計	64,257	63,851	1,932	1,848	370	270	0	270	188	73				5	183	82	
%		B/A 99.4	C/B 3.0	D/B 2.9	E/B 0.6	F/E 73.0		H/B 0.4	I/B 0.3								K/H 30.4

表2 1次精検の尿所見（実人数）

	小学校		中学校		高校		計
	男	女	男	女	男	女	
蛋白質尿	5	28	23	29		1	86
血尿群1	21	40	12	9			82
血尿群2		1		1			2
蛋白尿・血尿	2	6	3	3		1	15
尿路感染症		1		1			2
計	28	76	38	43		2	187

表3 1次精検の血液検査（延べ人数）

	小学校		中学校		高校		計
	男	女	男	女	男	女	
A S O 上昇	9	15	5	6			35
総コレステロール増加		2	1	2			5
尿素窒素高値				1			1
クレアチニン高値				1			1
総蛋白減少	1	2					3
計	10	19	6	10			45

○医療機関実施（表4、5）

表4 受診数及び異常数

	メジカルセンター 1次精検未受診数			受診数			2次精検結果								管理 不要 総数  (K)	
								異常あり								
								総数		管理指導区分						
	2検 異常者	学校 希望者	計	2検 異常者	学校 希望者	計	腎尿路疾患既 往のある者 (再掲)	腎尿路疾患既 往のある者 (再掲)	A	B	C	D	E			
小学校	男	20	24	44	18	24	42	37 (21)	24 (15)		1 (1)		1 (1)	35 (19)	5 (3)	
	女	46	58	104	40	58	98	89 (50)	46 (30)		1 (1)	1	1 (1)	86 (48)	9 (8)	
	計	66	82	148	58	82	140	126 (71)	70 (45)		2 (2)	1	2 (2)	121 (67)	14 (11)	
中学校	男	15	22	37	15	23	38	34 (19)	17 (12)				1 (1)	33 (19)	4 (3)	
	女	18	21	39	14	21	35	28 (15)	13 (6)					28 (15)	7 (6)	
	計	33	43	76	29	44	73	62 (34)	30 (18)				1 (1)	61 (34)	11 (9)	
高校	男															
	女	1		1	1		1	1						1		
	計	1		1	1		1	1						1		
合計	100	125	225	88	126	214	189 (105)	100 (63)		2 (2)	1	3 (3)	183 (101)	25 (20)		

※ ( ) : 学校希望者の再掲

○医療機関実施

表5 精検結果

病名	要 管 理						管 理 不 要						合計		
	小学校		中学校		高 校		計	小学校		中学校		高 校		計	
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男			女
暫定診断名															
血 尿 群 1	17	58	16	10			101	1			1			2	103
血 尿 群 2		3	1				4								4
無 症 候 性 蛋 白 尿	2	9	2			1	14								14
蛋 白 尿 ・ 血 尿	1			3			4								4
計	20	70	19	13		1	123	1			1			2	125
生理的蛋白尿															
体 位 性 蛋 白 尿		1	1	1			3				2			2	5
無症候性血尿を呈するもの															
家 族 性 良 性 血 尿	1	5	4	6			16	1						1	17
菲 薄 基 底 膜 症 候 群				1			1								1
ナットクラッカー現象				1			1								1
高カルシウム尿症	1		1				2								2
計	2	5	5	8			20	1						1	21
糸球体疾患（原発性、二次性、遺伝性を含む）															
急 性 糸 球 体 腎 炎	2	1					3		1					1	4
メサンギウム増殖性糸球体腎炎	1	1		1			3								3
I g A 腎 症	3	5		2			10								10
紫 斑 病 性 腎 炎	3	1					4								4
膜 性 腎 症			1				1								1
ネフローゼ症候群	3	1	5				9			1				1	10
アルポート症候群		1					1								1
ネイル・バテラー症候群			1	1			2								2
計	12	10	7	4			33		1		1			2	35
尿細管・間質障害															
特発性尿細管性蛋白尿症															
腎・尿路奇形に起因する疾患・慢性腎不全を呈するもの															
水 腎 症	1	1					2								2
低 異 形 成 腎	1						1								1
腎 嚢 胞		1					1								1
計	2	2					4								4
その他															
腎 移 植			1				1								1
総コレステロール増加		1					1								1
そ の 他	1		1	2			4								4
計	1	1	2	2			6								6
異常なし								3	8	4	3			18	18
合 計	37	89	34	28	0	1	189	5	9	4	7	0	0	25	214

○2次精密検査受診者 追跡調査（表6～9）（メジカルセンター受診後の状況）

表6 受診状況と管理指導区分

		2次精密検査		要 管 理					管理不要	
		対象数	受診数	総数	管理指導区分					
					A	B	C	D		E
小学校	男	28	25	10					10	15
	女	76	74	34					34	40
	計	104	99	44					44	55
中学校	男	37	36	10					10	26
	女	45	40	8					8	32
	計	82	76	18					18	58
高校	男									
	女	2	2							2
	計	2	2							2
合計		188	177	62					62	115

表7 現 況

		要治療・経過観察				管理不要		
		している	来院しなくなった	転医	計	受診不要	治癒した	計
小学校	男	10			10	15		15
	女	26		8	34	39	1	40
	計	36		8	44	54	1	55
中学校	男	9		1	10	26		26
	女	8			8	32		32
	計	17		1	18	58		58
高校	男							
	女					2		2
	計					2		2
合計		53		9	62	114	1	115

○メジカルセンター実施の追跡

表8 病 名

病 名	要 管 理						管 理 不 要						合計		
	小学校		中学校		高 校		計	小学校		中学校		高 校		計	
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男			女
暫定診断名															
血 尿 群 1	7	28	5	3			43	3	3	1	2			9	52
血 尿 群 2		1	1	1			3								3
無 症 候 性 蛋 白 尿		1	1	1			3	1	1		1			3	6
蛋 白 尿 ・ 血 尿			2	1			3			1				1	4
計	7	30	9	6			52	4	4	2	3			13	65
生理的蛋白尿															
体 位 性 蛋 白 尿		1					1	4	18	19	10			51	52
計		1					1	4	18	19	10			51	52
無症候性血尿を呈するもの															
家 族 性 良 性 血 尿	1	1		1			3		2					2	5
高 カ ル シ ウ ム 尿 症	1	1					2								2
計	2	2		1			5		2					2	7
糸球体疾患（原発性、二次性、遺伝性を含む）															
非メサンギウム増殖性糸球体腎炎		1					1								1
I g A 腎 症			1	1			2								2
ネ フ ロ ー ゼ 症 候 群	1						1								1
計	1	1	1	1			4								4
その他															
膿 尿									1				1	2	2
腎 孟 拡 大 ・ 変 形								1						1	1
計								1	1				1	3	3
異常なし								6	15	5	19		1	46	46
合 計	10	34	10	8	0	0	62	15	40	26	32	0	2	115	177



○メジカルセンター実施と医療機関実施の合計（表9、10）

表9 病 名

病 名	要 管 理							管 理 不 要						合計	出生体 重・妊娠 期間異常 (再掲)	
	小学校		中学校		高 校		計	小学校		中学校		高 校				計
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女			
暫定診断名																
血 尿 群 1	24	86	21	13			144	4	3	1	3			11	155	9
血 尿 群 2		4	2	1			7								7	
無 症 候 性 蛋 白 尿	2	10	3	1		1	17	1	1		1			3	20	1
蛋 白 尿 ・ 血 尿	1		2	4			7			1				1	8	1
計	27	100	28	19		1	175	5	4	2	4			15	190	11
生理的蛋白尿																
体 位 性 蛋 白 尿		2	1	1			4	4	18	19	12			53	57	8
計		2	1	1			4	4	18	19	12			53	57	8
無症候性血尿を呈するもの																
家 族 性 良 性 血 尿	2	6	4	7			19	1	2					3	22	2
菲 薄 基 底 膜 症 候 群				1			1								1	
ナ ッ ト ク ラ ッ カ ー 現 象				1			1								1	
高 カ ル シ ウ ム 尿 症	2	1	1				4								4	
計	4	7	5	9			25	1	2					3	28	2
糸球体疾患（原発性、二次性、遺伝性を含む）																
急 性 糸 球 体 腎 炎	2	1					3		1					1	4	
メ サ ン ギ ウ ム 増 殖 性 糸 球 体 腎 炎	1	2		1			4								4	
I g A 腎 症	3	5	1	3			12								12	
紫 斑 病 性 腎 炎	3	1					4								4	
膜 性 腎 症			1				1								1	
ネ フ ロ ー ゼ 症 候 群	4	1	5				10			1				1	11	1
ア ル ボ ー ト 症 候 群		1					1								1	
ネ イ ル ・ パ テ ラ ー 症 候 群			1	1			2								2	1
計	13	11	8	5			37		1		1			2	39	2
尿細管・間質障害																
特 発 性 尿 細 管 性 蛋 白 尿 症															0	
腎・尿路奇形に起因する疾患・慢性腎不全を呈するもの																
水 腎 症	1	1					2								2	
低 異 形 成 腎	1						1								1	
腎 囊 胞		1					1								1	
計	2	2					4								4	
その他																
膿 尿									1				1	2	2	
腎 移 植			1				1								1	
腎 盂 拡 大 ・ 変 形								1						1	1	
総 コ レ ス テ ロ ー ル 増 加		1					1								1	
そ の 他	1		1	2			4								4	
計	1	1	2	2			6	1	1				1	3	9	
異常なし								9	23	9	22		1	64	64	4
合 計	47	123	44	36	0	1	251	20	49	30	39	0	2	140	391	27

表10 管理指導区分

		要 管 理					管理 不要	合計	
		A	B	C	D	E			計
小学校	男		1		1	45	47	20	67
	女		1	1	1	120	123	49	172
	計		2	1	2	165	170	69	239
中学校	男				1	43	44	30	74
	女					36	36	39	75
	計				1	79	80	69	149
高 校	男								
	女					1	1	2	3
	計					1	1	2	3
合 計			2	1	3	245	251	140	391

表11 総括（メジカルセンター受診後追跡+他医療機関受診）内の初診

		1 検 対象数 (A)	1次検尿		2次検尿		精検受診数					
			受検数 (B)	異常数 (C)	受検数 (D)	異常数 (E)	2 検異常数 (F) (G)		学校希望数 (H) (I)		計 (J) (K)	
							初診	初診	初診	初診		
小学校	男	21,196	21,189	310	297	54	43	24	24	4	67	28
	女	20,134	20,102	602	578	154	114	65	58	1	172	66
	計	41,330	41,291	912	875	208	157	89	82	5	239	94
中学校	男	10,938	10,859	393	373	67	51	32	23	1	74	33
	女	10,415	10,356	569	546	91	54	29	21	3	75	32
	計	21,353	21,215	962	919	158	105	61	44	4	149	65
高 校	男	703	586	21	19							
	女	871	759	37	35	4	3				3	
	計	1,574	1,345	58	54	4	3				3	
合計	64,257	63,851	1,932	1,848	370	265	150	126	9	391	159	
%		B/A	C/B	D/B	E/D		G/F		I/H		K/J	
		99.4	3.0	2.9	20.0		56.6		7.2		41.0	

精検結果											
異常あり											異常なし
総数		管理指導区分								管理不要	
(L)	初診 (M)	A	B		C	D		E		(N)	初診 (O)
			初診	初診		初診	初診				
47	13		1	1		1		45	12	20	15
123	30		1		1	1		120	30	49	36
170	43		2	1	1	2		165	42	69	51
44	9					1	1	43	8	30	24
36	6							36	6	39	26
80	15					1	1	79	14	69	50
1								1		2	
1								1		2	
251	58 M/L 23.1		2	1	1	3	1	245	56	140	101 O/N 72.1

ここでの初診とは… ※ 小1で既往歴の記入がない  
 ※ 小2以上で、前年度までに要管理になったことがない